

日野市観光協会だより

第31号 60周年記念号 (平成31年3月発行)

特定非営利活動法人 日野市観光協会
<http://www.shinsenhino.com/>



アジアゾウのアヌーラ(非公開)は、来園60年を迎えた今もまだ元気です。現在はアマラ(写真左)、ガイドゥラ(右)が皆さまをお迎えしています。

日野市観光協会60周年を迎えて



特定非営利活動法人日野市観光協会
理事長 杉田 純一

昭和33年日野町・七生村合併を機に発足した「日野観光協会」。昭和38年には市制が施行され日野市となり、その後昭和62年に「日野市観光協会」と名称を変更し、今年で創立60周年を迎えることが出来ました。これも偏えに七代の歴代会長・理事長を始め、多くの協会役員、会員の皆さま方の並々ならぬ努力の結果と心より感謝の意を表する次第でございます。

市制が施行された頃より動物園線開通、中央自動車道調布・八王子間開通、高幡不動尊五重塔建立・新東京百景一位、日野バイパスの開通、立日橋・ふれあい橋の開通、全国水の郷の認定と日野市を取り巻く環境整備が急速に進み、現在は18万人を越す市民の街として発展しています。その流れの中、協会も「伸びゆく日野市写真コンクール」を始め、高幡不動尊菊まつり開催、京王百草園に若山牧水の歌碑建立、あじさいまつり開催、七福神めぐりなどを行いました。

市制25周年、日野市観光協会30周年記念事業として昭和63年に開催された新選組まつりは、十年後、平成10年の市制35周年、土方歳三没後130年の新選組 in 日野につながり、土方歳三への気運が高まりました。

更に平成16年のNHK大河ドラマ「新選組！」の放映で日本中に広く知られるところとなり、日野市と共催した新選組フェスタ in 日野には、全国から多くの観光客が訪れ、「新選組のふるさと日野」を大きくアピール出来ました。市制50周年の平成25年からは念願の甲州街道を通行止めにして新選組まつりを開催しています。

協会は平成17年に日野市から日野宿本陣管理運営を受託し、事務局も本陣内に移し、翌年の平成18年には今後の多様な観光環境に対応するため東京都より「特定非営利活動法人 日野市観光協会」の認可を受けました。その年の秋、高幡不動尊の萬燈会にあわせ、協会の発案で「たかはたもみじ灯路」を参道通りを中心に地元三商店会が協力して開催し、昨年で13回を迎え、日野の大きなおまつりとして成長しています。

また、新たな名所として高幡不動尊に曼珠沙華を植栽するなど、一步一步日野の観光を盛り上げています。日野を訪れる観光客の方々が安心して観光できる環境づくりとして、多言語による動画やパンフレットの整備を進めています。特に、今年には土方歳三没後150年を迎える特別な年にあたり、広く日野市をPRしていきたいと考えています。

日野市は多摩川・浅川の大きな川が流れ、緑に囲まれ、豊かな観光資源があります。この度の60周年を機に、更なる観光地日野を目指して会員一同努力することをお誓い申し上げてご挨拶させていただきます。

日野市観光協会60周年にあたって



日野市長 大坪 冬彦

日野市観光協会が、設立から今年で60周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。歴代の会長・理事長をはじめ、杉田純一理事長、役員の方々、会員各位の永きにわたる日野市への貢献に敬意を表します。

日野市観光協会は、日野市の観光事業の牽引役として、60年前に設立されました。ちょうど、多摩動物公園が開園した年であり、多摩動物公園の誘致にも力を尽くして頂いたと伺っております。

60年という歴史において、「高幡不動尊菊まつり」や「伸びゆく日野市写真コンクール」などの事業を継続して実施していただいております。

また、平成16年の大河ドラマ「新選組！」放映に併わせて開催された「新選組フェスタ in 日野」では、「おもてなし」の心で多くの来場者を日野市へ迎えて頂きました。

平成18年には、特定非営利活動法人を取得され、目まぐるしく変化する観光事業に対応できる組織を確立して頂きました。

「市制施行50周年・第16回ひの新選組まつり」は、甲州街道の一部を初めて交通規制して開催されました。地域の皆さまと一体となって楽しむ現在のスタイルが確立され、来場者も年々増加しております。この発展のきっかけとなった「ひの新選組まつりシンポジウム」も「日野市まちおこし連絡協議会」との共催で実施していただきました。

2020東京オリンピック・パラリンピック開催を踏まえ、インバウンド対応についても積極的に取り組んで頂いています。新選組アニメ「薄桜鬼」を活用した外国人向けHPの開設や、ラストサムライ新選組のPR映像の作成、発信なども積極的に行っていただいております。

現在、日野市では、土方歳三没後150年のシティプロモーションを多くの皆さまの協力により実施しております。観光協会におかれましては、ロゴデザインの作成や、情報誌の作成などをお願いいたしました。観光協会には、新選組のご子孫、地元企業など多くの方が会員としていらっしゃるの、心強く感じております。

結びになりますが、2020東京オリンピック・パラリンピック開催が迫ってまいりました。今後も観光事業の牽引役としての活躍に期待すると共に、更なる発展をご祈念申し上げ祝辞といたします。

日野市観光協会 歴代会長・理事長、副会長・副理事長

(敬称略)

任 期	会長・理事長	副 会 長 ・ 副 理 事 長				
昭和62年4月～平成元年6月	秋山 祐雅	滝瀬 金吾	日野 源作	谷井 潤三	齊藤 一	天野 健男
平成元年7月～平成3年6月	谷井 潤三	佐藤 弘	齊藤 一			
平成3年7月～平成4年3月	馬場 弘融	佐藤 弘	齊藤 一			
平成4年4月～平成5年3月	馬場 弘融	川嶋 博	下田 隆康			
平成5年4月～平成7年3月	馬場 弘融	下田 隆康	川嶋 博			
平成7年4月～平成9年3月	馬場 弘融	川嶋 博	近藤 攻			
平成9年4月～平成11年3月	川嶋 博	馬場 喜春	大木 茂	近藤 攻	真野 光久	大貫 隆
平成11年4月～平成17年3月	大木 茂	馬場 喜春	近藤 攻			
平成17年4月～平成19年3月	川澄 祐勝	亀田宇三郎	谷井 正剛	杉田 純一	井上 敏夫	
平成19年4月～平成24年3月	川澄 祐勝	亀田宇三郎	谷井 正剛	杉田 純一	寺田 公普	
平成24年4月～平成25年3月	川澄 祐勝	谷井 正剛	亀田宇三郎	杉田 純一	中澤 洋	
平成25年4月～平成29年3月	川澄 祐勝	谷井 正剛	滝瀬 正幸	杉田 純一	中澤 洋	
平成29年4月～現在	杉田 純一	谷井 正剛	滝瀬 正幸	武井 素文	中澤 洋	

60周年記念事業

「日野市観光協会60年の歩み」写真展 10月27日(土)～ 11月18日(日)



高幡不動尊で開催された、第48回高幡不動尊菊まつりで「日野市観光協会60年の歩み」の写真展示を行いました。昭和33年の多摩動物公園の開園式から始まり、観光協会の主な出来事を延べ47枚の写真で紹介しました。菊まつりに訪れた多くの方が楽しそうにご覧になっていました。

(菊まつり部)

会員研修（新選組を訪ねて）

3月26日(火)

観光協会60周年事業の一環として、研修部とガイド部の協同主催による市内の新選組を訪ねる研修会を3月26日(火)に行いました。コースは新選組関連施設を中心に「高幡不動尊～石田寺(せきでんじ)～土方歳三資料館～新選組のふるさと歴史館～八坂神社～井上源三郎資料館～佐藤彦五郎資料館～日野宿本陣」でした。会員の方の中には新選組の施設が身近過ぎてガイドの解説を受ける機会のない方もおられたのではないのでしょうか。今年が土方歳三没後150年に当たる年です。新選組を通じ日野の観光を見直す良い機会としていただければ幸いです。

(研修部・ガイド部)

「日野市観光協会60年の歩み」DVD

広報部は「日野市観光協会だより」の編集をはじめ、グッズの企画立案・製作、ホームページの制作維持管理、テレビ局をはじめマスコミの取材対応、日野市からの委託業務の主幹等を幅広く担当している部会です。

その活動の多くは「日野市観光協会だより」を通じ、会員の皆さまをはじめ、広く外部に観光協会に関する情報を発信する事です。

この50周年から60周年までの10年間は社会情勢、技術の進化により従来の活動とは内容も変化しました。広報部は観光協会の歴史の管理者である責任を深く自覚して、情報の発掘、記録にこころがけてまいります。

そこで60周年記念事業として、「日野市観光協会の歩み」DVDを発行することになりました。少しでも皆さまの参考にして頂ければ幸いです。

(広報部)

日野市観光協会10年の歩み

年 表

- 2008年/平成20年 観光協会50周年
会員研修旅行で福島県会津若松市を視察。会津まつりに参加
- 2011年/平成23年 東日本大震災。日野宿本陣の大黒柱にヒビ
ひの新選組まつり中止
会員研修旅行で宮城県石巻市を訪問
- 2012年/平成24年 東芝工場の不要事務用品を被災地支援物資として活用。事務用品の清掃等に協力
- 2013年/平成25年 日野宿交流館内に観光案内所を開設、市制施行50周年、日野宿本陣来館者10万人達成
甲州街道を通行止めにし、新選組まつりを開催
東京国体開催、日野市で空手、ホッケー、ボクシングが行われ、天皇陛下がボクシングをご観覧
- 2014年/平成26年 観光 PR DVD「手ぶらでぶらっと行く旅」作成（日本語、英語、中国語、韓国語）
新選組 WAON カードが発売
ニッポン全国物産展にて日野の焼カレーパンが準グランプリを受賞
多摩最古の TOYODA BEER を復刻
- 2015年/平成27年 高幡不動尊に新たな名所として曼殊沙華を植栽
日野の紹介、英語版リーフレット作成
- 2016年/平成28年 会員研修旅行で宮城県仙台市を視察
東京観光案内所の資格取得
Free Wi-Fi の設置（日野宿本陣、観光案内所、新選組のふるさと歴史館、日野駅、高幡不動駅）
薄桜鬼の観光パンフレット作成（英語、中国語、韓国語）
- 2017年/平成29年 都市間交流として日野市商工会と合同で姉妹都市 岩手県紫波町を訪問
観光協会ホームページの新選組案内のスマホ等対応
- 2018年/平成30年 日野市さくら標本木の指定



平成23年
3月11日に発生した東日本大震災。日野宿本陣の大黒柱にもひびが入りました。



平成25年
平成17年4月に日野宿本陣が開館して以来10万人目のお客様を9月21日に迎えました。



平成28年
会員研修旅行で宮城県仙台市を視察。高幡不動尊で地蔵尊像20,000体を奉安した北釜地藏堂を訪問しました。

「平成23年 3月11日に発生した東日本大震災。日野宿本陣の大黒柱にもひびが入りました。」とありますが、正しくは「大黒柱には震災以前からも小さいひびがあり、地震によりそれが広がりました。」お詫びして訂正いたします。

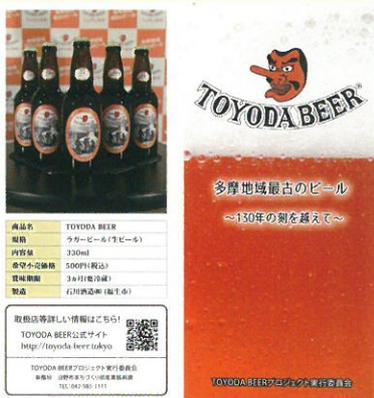
(平成20年から平成30年)



平成25年
市からの受託事業として、日野宿交流館内に観光案内所と売店を開設しました。



平成25年
念願の甲州街道を通行止めにし、新選組まつりが開催されました。新選組まつりの新たな1歩が踏み出された年です。



平成26年
明治19年多摩地域最古のビールを当時と同じ製造方法で復刻しました。



平成27年
日野に新たな名所。高幡不動尊の高幡山に10万本の曼珠沙華が植えられました。



平成29年
日野市と姉妹都市を締結した岩手県紫波町しわちやうと今後の交流を図るため日野市観光協会、日野市商工会で訪問しました。



平成30年
日野市観光協会が独自にさくらの標本木(高幡不動尊事務所前のソメイヨシノ)を定めました。

第48回 高幡不動尊菊まつり

10月27日(土)～
11月18日(日)



第48回高幡不動尊菊まつりが多摩地域10市で構成されている東京多摩菊花連盟主管、日野市観光協会主催で開催されました。

猛暑のうえ、大型台風の来襲で植木鉢が倒れて花や枝が折れたり、とても厳しい条件でした。秋の開花を心配しましたが、審査の日には例年にも増して花弁が整った立派な花が並び、ほっとしました。花壇のコンテストも、年々工夫をこらし人気を集めています。関係者の皆さま、ご協力ありがとうございました。(菊まつり部)

第52回 日野市産業まつり

11月10日(土)
11日(日)

第52回日野市産業まつりは好天に恵まれた中、市民の森ふれあいホール周辺で盛大に開催されました。今年で3回目となる都市間ブースでは日野市観光協会スタッフも会津若松市、岩手県紫波町、八丈島の物品販売の手伝いや交流が盛んに行われ、和やかな雰囲気でした。またスーパーボールすくいや「たかはたもみじ灯路」のチラシ等を配布しました。

台風等が日本列島を縦断した事から、農作物が各地で不作となりましたが来場者は日野産の大根やネギ、白菜など野菜を買うことができました。

(事業部)



第13回 平山^{すえしげ}季重まつり

10月21日(日)



好天に恵まれ、第13回平山季重まつりが行われました。地域の方々が主体となった手作りのまつりです。

主会場である平山小学校の校庭には、ステージで、保育園児・幼稚園児の演舞があったことから若いファミリー層もたくさん集まり賑わっていました。今回は新しい試みとして、オリジナルの紙甲冑などを着用して仮装した行列(平山小～平山城址公園駅前)と、弓の名人だった平山季重に因んだ平成最後の弓合戦(おもちゃの弓矢使用)などが行われました。地域興しのまつりとして、来年も大いに期待しています。

(まつり推進部)

会員研修旅行(土方歳三ゆかりの地 宇都宮市)

11月8日(木)

今回の研修先は、土方歳三ゆかりの地、栃木県宇都宮市です。車中に於いて、芹川ガイド部長より新選組との関わりや予備知識をもらい宇都宮城址等の見学をしました。現地のボランティアガイドより説明を受けながらの市内見学。続いて昼食後、大谷石の採掘場でもあった大谷資料館を見学。今では、各種商業撮影やプロモーションビデオ撮影にも使用されているとても幻想的で素晴らしい場所です。その後、道の駅「うつのみやろまんちっく村」を見学とお買い物、皆さん喜んで研修を終えました。(研修部)



高幡不動尊節分会

2月8日(日)

春のぽかぽか陽気の中、^{せつぶんえ}節分会が開催されました。日曜日ということもあり山門から境内まで多くの人々で賑わっており、昨年に続き今年も親子連れが目立ちました。特に五重塔の階段の上まで参拝客が詰めかけ、法輪閣から豆まきをする芸能人も年男も多くの人々に驚きを隠せなかったようです。また袋詰めは特別部員の方も参加を頂き大勢での「福」を詰められました。850袋は4回目の15時に完売をいたしました。今年も袋詰め・豆煎り式・販売にご協力を頂き有難うございました。(事業部)



第13回たかはたもみじ灯路

11月22日(水)・23日(金)



たかはたもみじ灯路が4万人の来場者の中行われました。今回は、日野市商工会青年部の発案により、滞留して楽しめるスペースとして、さわやか信用金庫の駐車場でミニコンサートとおもてなし屋台を併わせて実施しました。2日目にはもみじ灯路で出たろうソクを再利用したボタニカルキャンドルの制作や、ひの・たま観光連携推進事業の一環としてラスカルの着ぐるみも登場しました。また、灯籠の列の要所に立体的なキャンドルスタンドを立て、新たな飾り方を工夫し、多くの方に好評を得ました。(まつり推進部)

第52回 伸びゆく日野市写真コンクール

応募期間12月11日(火)～1月11日(金)

第52回伸びゆく日野市写真コンクールが開催され、73名405点の中から29点が入賞をしました。「1人1賞」を作品募集要項から外しました結果、昨年に比べ約100点も増えました。今回もさまざまな日野市の表情を捉えた作品が揃いました。特別賞(企業賞)は、その企業をアピールできる写真が選ばれることもありましたが、今年の選考ではその傾向と少し変化をしているように感じました。また毎年多摩平を賑わせる「ひのよさこい祭」が台風で中止となり、躍動感に溢れる作品が無かった事は残念で仕方ありません。5月には新しい元号になります。日野市の新たな1ページを写してみてください。(事業部)



推薦(日野市長賞)
第3回浅川アユまつり「ピストン釣り大会」 設楽誠一

土方歳三没後150年記念ロゴ



2019年は土方歳三没後150年の年にあたります。平成28年に行った「日野市認知度等調査*」で、調査対象2000人中「日野市を知らない」と答えた人の割合が15.2%でした。また日野市を知る人にとっての印象は、日野は「新選組のふるさと」というものでした。このことからロゴを作成し、没後150年を記念して、日野市をPRするものです。

ロゴを使用したい方は市のHP上から申請をすることができます。また1月16日(水)からはラッピングタクシーの運行も始まりました。これは土方歳三をはじめ日野市の代表的な風景をタクシーの側面にラッピングしたものです。市内のタクシー事業者3社の協力のもと、9台のタクシーが走っています。日野市の観光紹介となることを期待しています。

※「日野市認知度等調査」とは、市の地域資源や魅力を市内外に発信するシティセールスの取り組みの方向性を明確化することを目的に実施した調査。(詳細は日野市HP)

日野市観光協会の歩み 1958年(昭和33年)、日野町・七生村が合併し都立多摩動物公園が開園した年に日野観光協会として発足しました。1987年(昭和62年)日野観光協会から日野市観光協会へと名称を変更し、2006年(平成18年)3月28日に「特定非営利活動法人」の認可を受けました。その間、「菊まつり」「新選組まつり」をはじめ多くの事業を実施し2005年(平成17年)には事務局を「日野宿本陣」の敷地内に移転しました。

これからの行事予定

5月11日(土)・12日(日)	第22回ひの新選組まつり
6月3日(月)	日野市観光協会定期総会
6月1日(土)～6月30日(日)	高幡不動尊あじさいまつり
未定	第19回ひのよさこい祭

お知らせ

現在、日野市観光協会ではバナー広告主を募集しております。ぜひご検討ください。
(サイド月額 会員2,500円 一般5,000円)

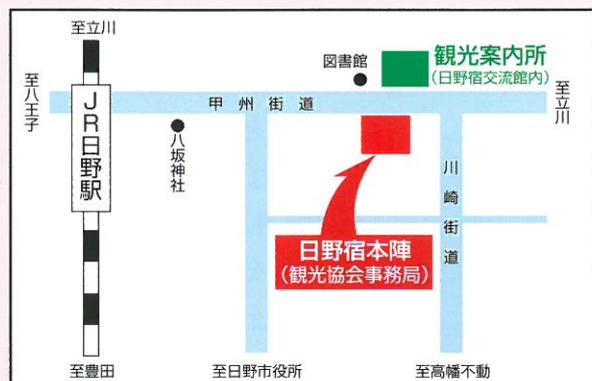
特定非営利活動法人日野市観光協会 事務局

9:00AM～5:00PM (月曜定休)

〒191-0011 東京都日野市日野本町 2-15-9

TEL(042)586-8808 FAX(042)586-8961

E-mail info@shinsenhino.com



会員募集

特定非営利活動法人日野市観光協会では会員を募集しています。日野市の観光や新選組、その他イベント等に興味のある方のお入会をお待ちしています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

編集後記

観光協会を創立した先人達の思いから山あり谷あり60年が経過しました。この間、記録、文書化の必要性から「観光協会だより」が創刊され、この度31号(60周年記念号)の発刊に至りました。今後、次世代に繋がる観光協会の運営は、適格性評価、妥当性確認を踏まえた部門、行事ごとの記録、文書化の手順書整理が必要であり、この手順書を基に、活動を見直し改善しながら運営する事がさらに発展に寄与すると感じる次第です。(T)